

# 「本当に中国は攻撃して

## 来るのだろうか」

### 高井弘之さん講演会報告

八木巖

不戦へのネットワークは今後の方針のなかで「中国脅威論」に対抗することの重要性を考えています。2月1日に高井弘之さん(ノーモア沖縄戦・愛媛の会)の講演会を行いました。

個人的なことですが最近床屋さんで女性理容師の人が「万博のチケットを買うと情報が中国にいくらしい」と言っていて、万博は中国のために税金を使ってやっていると言っていました。この女性は以前にも自宅の前に「あの国の人」が立っていて、この辺を買い占めるのではないかと心配だと言っていたのを思い出しました。さすがに私も「反論」しました(まさに床屋政談です)。こうした話はあちこちにあり、中国が水源地を買いあさっている、基地の周りは買い占められている。テレビでもやっているし、中国人への観光ビザのことで岩屋外務大臣は中国派として批判されている。こうしたことは立ち話レベルで普通に出てくる会話です。それが軍事、政治の「中国脅威論」の下支えになっています。対抗するのは事実の提起しかないわけですが、彼らには彼らの「事実」があるようで大変です。かつて、ある会議で私が「ネウヨ」という言葉をすっかり使うことがあって、そのときは強くしかられました。対話が大事であってそ

の言葉(ネウヨ)は対話拒絶になるといわれたことがあり、反省したことがあります。とはいえ対話はなかなか大変です。

「事実、現実」を知るということが第1歩です。そこで高井さんに表題のテーマでの講演をお願いしました。高井さんはブックレット「日米の『対中国戦争態勢』とは何か—東アジアでの戦争を止めるために—」を出しておられる(発行は「ノーモア沖縄戦・えひめの会」)ので講演をお願いしました。

高井さんは琉球弧(奄美・宮古・石垣・沖縄)へのミサイル基地配備や中国沿海地域でのNATO主要国軍も参加する合同演習について触れ、「日米共同作戦計画」がたてられ、実際に戦闘訓練もおこなわれているという「対中軍事包囲網」の現状を説明し、戦争態勢は西日本に拡大され、自衛隊司令部の地下化、地方空港・港湾の軍事拠点化が進み、列

島が「戦争マシーン」とされようとしている、と述べられました。現在の軍拡も「中国脅威論」が前提とされているということ。

高井さんはこの対中包囲網を帝国主義列強の植民地支配の体制・戦後の西欧中心の秩序が「新興国」により、今挑戦をうけている。それはグローバルサウスの動きでもある、という趣旨で話しをされました。

日本抜きでこの中国包囲網は成り立たないので、日本はそこから抜けださなければならない。そして東アジアの平和をめざさなければならない、とされました。

### ◆高井さんの講演全編\* \*

Youtubeにあげてあります。

<https://www.youtube.com/watch?v=40ugPfsZfpo>

◆また戦争をさせない1000人委員会あいち主催の泉川友樹さん「中国は脅威か 経済関係から検証する」はこちら

<https://www.youtube.com/watch?v=E5G8ZF>

## ノーモア沖縄戦・愛媛の会からの呼びかけ

### 1)リーフレット

『本当に「中国は攻撃して来る」のだろうか?』

#### 100万部配布プロジェクト

100万部配布を目指しています。

リーフレットは1部(A5判/カラー/8ページ)10円

※発送をご希望の方は100部以上でお願いします。(送料実費)

ご注文先 メール/

nmo.ehime@gmail.com

電話/090-8282-6077(立田)

090-3783-8332(阿部)



### 2)紹介した「日米の『対中国戦争態勢』とは何か」

のブックレットは好評につき売り切れ、現在改訂版を作成中です。読みやすくわかりやすいパンフレットなので、完成次第、ご案内します。